

今月の特集関連本 ④



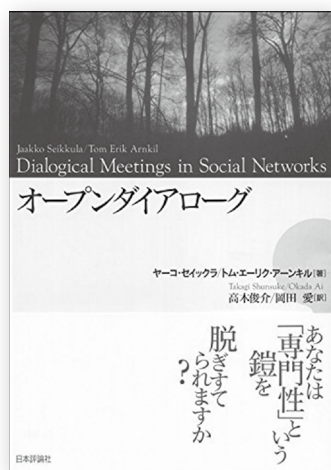
オープンダイアログとは何か

斎藤 環＝著＋訳

本体 1,800 円＋税／208 頁／医学書院／2015

「オープンダイアログ」関連本を 3 冊ご紹介します。「コミュニティ・ケア」のシステムでもあるオープンダイアログのコンセプトは、「地域医療」を担う総合診療医にとって、きっと参考になるはずです。

薬ではなく、まさにコミュニケーション（ダイアログ＝対話）を処方することがもたらす驚くべき効果と、その方法を徹底解剖。オープンダイアログの第一人者セックラ氏の論文と、斎藤先生の丁寧な解説が融合。生き生きとした事例、具体的なノウハウ、噛み砕いた理論紹介で、今、世界的に注目されているオープンダイアログの全貌がわかる！



オープンダイアログ

ヤーコ・セックラ、トム・エーリック・アーニキル＝著

高木俊介、岡田 愛＝訳

本体 2,200 円＋税／248 頁／日本論評社／2016

急性期精神疾患に 24 時間以内に介入し、対話中心で治療する「オープンダイアログ」の実例とシステムを紹介した初の基本的テキスト。フィンランドで独自に開発されたこの手法について、その第一人者・セックラ氏が技法や有効性について解説。また、未来を想定して不安をなくす「未来語りのダイアログ」(anticipation dialogue)についても言及し、そのうえでソーシャル・ネットワークの重要性を指摘している。



リフレクティング・プロセス（新装版）

会話における会話と会話

トム・アンデルセン＝著

鈴木浩二＝監訳

本体 3,200 円＋税／176 頁／金剛出版／2015

1987 年に発表され、その後 1990 年代の家族療法を位置づける鍵概念となった『The Reflecting Team』を、原著者自らが本邦のため再編集・加筆した。「リフレクティング・チーム」とは、セラピストと観察者、クライアントが互いに意見を反響させ、異なる循環を生むことで解決を図る技法のこと。

斎藤環先生曰く、リフレクティングとは「患者の目の前でケースカンファレンスをやるようなもの」(p.589)。shared decision making (p.547・579) の参考にもなりそう。